

令和7年度 第1回認知症初期集中支援チーム検討委員会議事録

- 1 **開催日** 令和7年7月4日（金）午後2時45分～3時10分
- 2 **開催場所** 市役所本庁舎401会議室
- 3 **出席者**
 - 〈委員〉 野澤委員、鳥山委員、矢野委員、深原委員、稲田委員、永野委員、宮城委員、道谷委員、森委員、阿部委員、紺谷委員、新谷委員
 - 〈ワーキング部会長〉
 - 稲田部会長（普及啓発ワーキング部会）
 - 松岡部会長（情報共有ワーキング部会）
 - 〈事務局〉 杉本福祉保健部長、柏嶋射水市民病院看護部長、菓子福祉保健部次長、小見政策調整監、黒川介護保険課長、政岡保険年金課長、村中地域福祉課長、長谷川地域共生推進班長、種村地域福祉課課長補佐、大伴保険年金課主査、木谷地域福祉課主査、寶田主任、村上理学療法士、細橋社会福祉士
- 4 **欠席者** 野村部会長（在宅支援ワーキング部会）
- 5 **議題（事務局説明項目）**
 - （1）射水市認知症総合支援事業実績及び計画（案）（資料1）
 - （2）認知症対応の状況（資料2）
 - （3）「射水市認知症施策推進計画」の策定状況について（資料3）
- 6 **質疑応答内容**
 - 会 長： 小中学校向け認知症サポーター養成講座については、具体的に進みそうか。
 - 事 務 局： 従来から養成講座の開催に取り組んでいる小中学校はあるが、現在、新規の申込みはない。今後も引き続き、地域の方、保護者などへ説明する機会をとらえて繰り返し養成講座について紹介していく。
 - 会 長： 高校生や大学生など若い方々に理解していただいて、新しい認知症観が広がるとよい。
 - 委 員： 小中学校向け認知症サポーター養成講座について、児童の場合は低学年、高学年など具体的な学年はあるのか。

委員： この講座に関する普及啓発については、地域包括支援センターから学校へ働きかけを行っている。小学校5年生の授業に「生活」の時間があり、その時間を活用されているケースが多く、受講者は5年生が多いと思われる。

会長： こうした取組により、ぜひ認知症サポーターが増えていくとよいと思う。

会長： 認知症の方の言葉を聴くこと、そしてその言葉を周囲へ伝えていくことから認知症に対する地域の理解が深まっていくことを期待している。

委員： 認知機能健診のMC I スクリーニング検査プラスを受診した方には、軽度認知障害（MC I）は認知症の前段階の状態であり、全ての人が認知症になることはないが、このまま何もしなければ確実に認知症へ進行することを伝えている。生活習慣病をしっかり治すこと、また、孤立せず社会的な参加活動や運動に取り組むことで、認知症の進行のスピードをかなり遅らせることができると言われている。認知症になってしまうのは仕方がないと諦めてしまうのではなく、生活習慣の改善に取り組むことで、認知機能の低下を緩やかにできる。認知症の治療薬（レカネマブ）はあるが、コストがかかり、治療を受ける人数に限りがあり、すべての人が治療を受けることはできない。

MC I 検診は、結果を聞いて終わりではない。かかりつけ医が受診者へ適切な助言やアドバイスを行うことが、認知症への進行を遅らせるアプローチとなり、適切な対応の始まりであると考えている。

委員： 運転免許証の更新時に認知症の恐れがあり医師の診断書が求められることがある。このような場合、脳血流シンチ（R I）の検査を受けることで認知症の確定診断ができる。MC I のリスクがある方や地域で心配な方には、検査の受診を勧めてほしい。

令和7年度 第1回射水市認知症初期集中支援チーム検討委員会 次第

日時 令和7年7月4日(金)

午後2時30分

(在宅医療介護連携推進協議会終了後)

会場 市役所本庁舎4階 会議室401

1 開会

2 議題

(1) 射水市認知症総合支援事業実績及び計画(案) (資料1)

(2) 認知症対応の状況 (資料2)

(3) 「射水市認知症施策推進計画」の策定状況について (資料3)

3 閉会

参考資料1 広報いみず(令和7年5月号2・3ページ)

参考資料2 ささえ隊メイトだより(令和7年6月発行)

参考資料3 おでかけなごもっとチラシ(令和7年4月17日)

参考資料4 射水市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画(認知症施策・抜粋)

参考資料5 射水市認知症初期集中支援チーム検討委員会設置要綱

参考資料6 認知症初期集中支援チーム員名簿

認知症施策推進大綱5つの柱	令和6年度 市全体での事業実績
1 普及啓発・本人発信支援	ア) 認知症サポーター養成講座 828人受講 ・「認知症の人にやさしいお店」登録制度(登録113事業所) ・認知症サポーターが身につける「オレンジちゃん缶バッジ」の普及 ・個人向け認知症サポーター養成講座の実施(6/5・10/16 午後・夜 計4回) ・市職員向け認知症サポーター養成講座の実施(9/18)
(1) 認知症に関する理解促進	【拡充】 イ) <u>世界アルツハイマーデー、認知症月間の機会を捉えた普及・啓発イベント</u> ・企画展示と啓発(クロスベイ新湊、新湊図書館、アルビスいみずの小杉店、中央図書館、大門総合会館【ささえ隊メイトと大門高校生と一緒に認知症啓発ティッシュ配布】、大島コミュニティセンター) ・認知症にやさしい地域づくりキャンペーン(9/21イオン高岡店) 県主催の普及啓発事業への協力・市の取組を紹介 ウ) 広報等による普及啓発 ・広報いみず 5・9月号特集記事 ・ケーブルテレビ「認知症オレンジちゃんねる」(隔月放送) 認知症総合支援事業について寸劇等で啓発 エ) 民間企業との認知症普及啓発活動 ・5月3日アランマーレ富山と認知症地域支援推進員による認知症啓発活動 女子ハンドボールチーム・アランマーレ富山(※)の試合会場にて認知症啓発ティッシュ等の配布、認知症に関する展示、オレンジちゃんねるの放映等の実施 ・認知症月間(9月)の認知症啓発活動についてアランマーレ富山からSNSで発信 (※射水市に拠点を置いており、チームカラー「オレンジ色」は、認知症を支えるシンボルカラーでもある。運営の株式会社プレステージ・インターナショナルは、射水市との包括的連携協定を締結。)
(2) 相談先の周知	ア) 「認知症ケアパス」の作成・配布 イ) 市ホームページの内容拡充 認知症地域支援推進員のページを作成し、相談窓口を周知
(3) 認知症の本人からの発信支援	ア) 認知症カフェでのピアサポート活動の実施支援 イ) 認知症の人と家族が集う場「なごもっと」(認知症の人と家族への一体的支援事業)の開催(12回、救急薬品市民交流プラザ) ・認知症の本人 延34人、家族 延29人、ささえ隊メイト 延62人 【拡充】 <u>地域包括支援センター圏域毎に開催(9回)</u> ・認知症の本人 延23人、家族 延25人、ささえ隊メイト 延18人
2 予防	ア) 脳いきいき健康講座 18回 延297人
(1) 認知症予防に資する可能性のある活動の推進	イ) さらさら射水100歳体操等高齢者の集いの場の拡充
3 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援	ア) 認知機能検診(4/1~3/31)、検診後の事後支援 イ) 認知症初期集中支援チーム ・個別支援 ・全体会議
(1) 早期発見・早期対応、医療体制の整備	ウ) もの忘れ・認知症相談会 12回 延5人 エ) 運転免許更新高齢者講習時に認知機能検診の案内チラシ配布
(2) 医療従事者等の認知症対応力向上の促進	県で実施
(3) 介護従事者の認知症対応力向上の促進	射水市医師会Webセミナー「認知症初期集中支援事業」(9/26 46人) 演題「これからの認知症診療の展望」講師:国立病院機構北陸病院 院長 吉田 光宏先生
(4) 認知症の人の介護者の負担軽減の推進	認知症カフェの開催(2会場)
4 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援	【拡充】 ア) <u>みまもり事業(どこシルプラス事業)の実施</u> ・登録者数57人、内10人廃止(年度末) ・みまもり隊(LINE登録者)568人(年度末)
(1) 「認知症バリアフリー」の推進	イ) 認知症高齢者等個人賠償責任保険事業の実施 対象者:みまもり事業登録者のうち、要件に該当する加入希望者 補償内容:補償額の上限 個人賠償1億円 加入者数33人(年度末) ウ) ひとこと声かけ体験会~安心して外歩きを楽しもう~の実施 12回 延218人 エ) ささえ隊メイト活動支援 登録者191人(年度末) ・ささえ隊メイトの養成・研修 認知症サポーターステップアップ講座の実施(11/19 18人) ささえ隊メイト研修会(認知症フレンドリー市民上映会、グループワーク 8/1:62人) 認知症ささえ隊メイトが身につける「認知症ささえ隊メイト缶バッジ」の普及 ・包括圏域ごとのささえ隊メイト交流会の開催 ・地域の集いの場での認知症ミニ講座の実施 6回 延82人 ・ささえ隊メイトだよりの発行 オ) 成年後見制度の利用促進 ・成年後見制度利用相談会(毎月第4水曜) 12回 延21人
(2) 若年性認知症の人への支援	若年性認知症相談・支援センターとの連携強化(連絡会への参加)
5 研究開発・産業促進・国際展開	

認知症の人と家族への一体的支援事業 「なごもっと」を各包括圏域で実施

認知症になっても出かけられる場を増やし支えてくれる人とつながろう

認知症の人と家族が安心して集い、出会い、つながり、話して和む場で、その日に集まった人でやりたい事を話し合っ実施しています。認知症地域支援推進員・ささえ隊メイトも参加し、気軽に相談でき地域とのつながりを継続できます。令和6年度は、救急薬品市民交流プラザでの実施に加え、地域包括支援センター圏域毎に「なごもっと」を開催しました。「なごもっと」がより身近に参加しやすくなることで、認知症の人と家族を支えます。また、本人の思いを大切に丁寧に聴いていきます。



【令和6年度実績】救急薬品市民交流プラザ年12回、認知症本人延34人、家族延29人、ささえ隊メイト延62人（拡充）圏域なごもっと年9回、認知症本人延23人、家族延25人、ささえ隊メイト延18人

みまもり事業（どこシルプラス事業）を実施

認知症になっても安心して出かけられるまちづくり

認知症の人を地域で見守り、行方不明になった高齢者等をより早く発見・保護できるよう、QRコードを使用したシールを利用する「どこシルプラス事業」に令和6年10月に移行し、実施しています。

「どこシルプラス事業」では、QRコードのシールを利用するWebシステム「どこシル伝言板」に「射水市LINE公式アカウント」での行方不明情報の配信をプラスし、捜索協力の輪を広げています。また、富山県内の他市町村においてもこのQRコードのシールの利用が拡大しており、共通のサービスを利用することで、どの市町村に行っても発見者が同じ対応ができることで、早期発見につながります。

【対象者】射水市に住所があり、認知症により行方不明になる可能性のある在宅の方

【費用】無料（シール代4,675円は市が負担）

【令和6年度実績】登録者数57人（内10人廃止）
みまもり隊（LINE登録者）568人

どこシル伝言板® の特徴

読み取ると発見者の手順を確認できます

<p style="background-color: #f96; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">準備はこれだけ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スマホのメールアドレスを用意する 2. 登録シートの記入 3. ラベルシールの貼付け 	<p style="font-size: x-small;">耐洗ラベル</p> <p style="font-size: x-small;">① 射水市 どこシル プラス AA0000</p> <p style="font-size: x-small;">衣服等にアイロンで貼付けます</p>	<p style="font-size: x-small;">24時間365日OK</p> <p style="font-size: x-small;">夜間も伝言板を通じてやりとりが可能。登録した方へ瞬時に発見通知メールが届きます。</p>	<p style="font-size: x-small;">声かけをしやすい</p> <p style="font-size: x-small;">ラベル・シールを貼っておくことで、発見者が声をかけるきっかけになります。</p>
	<p style="font-size: x-small;">蓄光シール</p> <p style="font-size: x-small;">② 射水市 どこシル プラス AA0000</p> <p style="font-size: x-small;">持ち物等に貼る暗闇で光るシール</p>	<p style="font-size: x-small;">個人情報の記載不要</p> <p style="font-size: x-small;">氏名・住所・連絡先の記載は不要なので安心です。</p>	

認知症基本計画による基本的施策		令和7年度 事業計画(案)
1	認知症の人に関する国民の理解の増進	<p>ア) 認知症サポーター養成講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「認知症の人にやさしいお店」登録制度 ・認知症サポーターが身につける「オレンジちゃん缶バッジ」の普及 ・事業所向け、個人向け認知症サポーター養成講座の実施 <p>【拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校向け認知症サポーター養成講座 <p>イ) 世界アルツハイマーデー、認知症月間の機会を捉えた普及・啓発イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館等での展示と啓発 ・県主催の普及啓発事業への協力 <p>ウ) 広報等による普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報いみず 5・9月号特集記事 ・ケーブルテレビ「認知症オレンジちゃんねる」(隔月放送) 認知症総合支援事業について寸劇等で啓発 <p>【拡充】</p> <p>エ) 民間企業との認知症普及啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アランマーレ富山(株式会社プレステージ・インターナショナル)と認知症地域支援推進員、ささえ隊メイトによる活動 <p>認知症に関する展示・認知症啓発ティッシュ等の配布・「認知症オレンジちゃんねる」への協力・アランマーレ富山からSNSで発信</p>
2	認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進	<p>ア) ひとこと声かけ体験会～安心して外歩きを楽しもう～の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の知識、高齢者への声かけ体験、どこシル伝言板の操作方法等を学ぶ <p>イ) みまもり事業(どこシルプラス事業)の実施</p> <p>ウ) 認知症高齢者等個人賠償責任保険事業の実施</p> <p>エ) 地域の集いの場での認知症ミニ講座の実施</p> <p>オ) ささえ隊メイト活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ささえ隊メイトの養成・研修 認知症サポーターステップアップ講座・ささえ隊メイト研修会の実施 認知症ささえ隊メイトが身につける「認知症ささえ隊メイト缶バッジ」の普及 ・包括圏域ごとのささえ隊メイト交流会の開催 ・ささえ隊メイトだよりの発行
3	認知症の人の社会参加の機会の確保等	<p>ア) 認知症カフェでのピアサポート活動の実施支援</p> <p>【拡充】</p> <p>イ) 認知症人と家族が集う場「なごもっと」(認知症の人と家族への一体的支援事業)の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急薬品市民交流プラザで開催、おでかけなごもっとの実施(年12回) ・地域包括支援センター全圏域において開催(随時)
4	認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護	<p>ア) 介護従事者に対する、認知症に関する研修会の開催</p> <p>イ) 成年後見制度の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度利用相談会(毎月第4水曜) 12回
5	保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備	<p>ア) 認知症サポート医との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チーム 個別支援、全体会議の開催 <p>イ) 射水市版認知症情報共有ツール及び多職種連携票の活用促進</p>
6	組織体制の整備等	<p>ア) 認知症カフェの開催(2会場)</p> <p>イ) 認知症の人と家族が集う場「なごもっと」(認知症の人と家族への一体的支援事業)の機会確保</p> <p>ウ) 「認知症の人にやさしいお店」登録制度との連携</p> <p>エ) 「いみずオレンジガイドブック(認知症ケアパス)」第7版の配布</p> <p>オ) 市ホームページの内容更新</p> <p>カ) 認知症疾患医療センターとの連携強化</p> <p>キ) 若年性認知症相談・支援センターとの連携強化</p>
7	研究等の推進等	
8	認知症の予防等	<p>ア) 脳いきいき健康講座</p> <p>イ) きららか射水100歳体操等高齢者の集いの場の拡充</p> <p>ウ) 認知機能検診、検診後の事後支援</p> <p>エ) 運転免許更新高齢者講習時に認知機能検診の案内チラシ配布</p>

小・中学校向け認知症サポーター養成講座

認知症施策推進基本計画において、児童・生徒や学校関係者が、「新しい認知症観」の実践的理解が深められるよう、学校教育における認知症に関する知識及び認知症の人に関する理解を深める教育の推進が掲げられました。

令和7年度は、4月15日に小・中学校の校長会で養成講座について説明し、授業等で開催を検討していただくよう周知しました。

認知症について正しい知識と理解をもち、
認知症の人や家族をできる範囲で手助け
しよう



ささえ隊メイトとの認知症普及啓発活動

ささえ隊メイトとは・・・

認知症サポーター養成講座を受講後、さらに認知症サポーターステップアップ講座を受講され、認知症の方とその家族に寄り添い、地域での認知症に関する活動に取り組んでおられる方です。

なごもっとや脳いきいき健康講座への参加・協力や地域の高齢者への声かけ、みまもりなどあいている時間で、できることを活動しています。

令和7年度は、6月14日にささえ隊メイトと認知症地域支援推進員が協力し、アランマーレ富山のブリックビューイング会場で認知症普及啓発の活動を行い、認知症への理解を呼びかけました。

認知症の人や家族を温かい目でみまもり、
理解を広めよう



認知症の人と家族への一体的支援事業 「なごもっと」でおでかけなごもっとを実施

認知症の人と家族が安心して集い、出会い、つながり、話して和む場で、その日に集まった人でやりたい事を話し合って実施し、自由に話したり相談することができます。認知症地域支援推進員・ささえ隊メイトも参加し、気軽に相談でき地域とのつながりを継続できます。

令和7年度は、4月17日に認知症本人の声から、「おでかけなごもっと」を企画しました。自分たちの行きたいところや食べたいものなどやりたい事を計画して、バスに乗って楽しい時間を過ごしました。認知症の人と家族を支え、本人の思いを大切に丁寧に聴いていきます。

認知症になってからも出かけられる場を
増やし、支えてくれる人とつながろう



認知症になっても 希望を持って 過ごせる 射水市へ

令和7年度作成・地域福祉課

「新しい認知症観」認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になっても、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方に立ち、周囲の人の支えも得ながら最期まで自分らしく暮らせるよう、地域づくりを推進しています。

【認知症本人の声を記録しました（令和6年度）】

◎認知症の方、本人の何気ないひとことシートの作成
地域包括支援センターで実施し、本人の声を記録



認知症本人の声

どこにでも散歩
に行きたい

あのコンビニは歩いて
いけるし、売っと
るもの知ってるから

介護タクシーを運転
していた経験もある
し、まだ人のために
何かしたい

誘ってもらえたら、
外出したい

⇒自分らしく過ごしたいという思い
「認知症の人やその家族の手助けとなる環境の整備」

認知症本人
の声を聴く

本人の声を継続的
に記録・蓄積・
発信

本人の声を射水市の
事業や取組につなげ
ていく

なんでも忘れちゃう、
娘におこられてばかり
いるの

最近忘れて家族に怒
られる、今まででき
たことができなくなり
つらい

⇒認知症の理解不足
「正しい知識と理解」

さみしさや不安で
昨日眠れなかった

だんだん自信がなく
なってきた、これか
らどうなるか不安

⇒相談場所、居場所づくり
が必要「社会とのつながり」

銀行

商店・スーパー

図書館

カフェ

公民館

社会福祉協議会

認知症サポーター

医療機関

介護保険サービス
事業所

地域包括支援
センター

行政

・認知症の人や家族の視点に立ち、関係機関と連絡調整を行いながら、認知症に関する施策を推進します。

・認知症の理解を深めるため、広く普及啓発を行います。

地域（事業所・市民）

・認知症について自分ごととして理解を深め、困っている人がいる時にはやさしい声かけを行いましょう。

・認知症の人や家族が参加しやすい場づくりを行いましょう。

地域包括支援センター ・ケアマネジャー

・認知症に関する相談に応じます。

・ひとりひとりの生活に合わせた支援を本人や家族と共に考えます。

本人・家族

・認知症になってもできることを実施し、周囲とつながりを持ちながら生活しましょう。

・困った時は、いつでも周囲に相談しましょう。

令和6年度 認知症対応の状況

資料2

1 認知症に関する相談対応の状況

(1) 認知症に関する住民相談

	R4年度		R5年度		R6年度	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
新湊西包括	46	510	55	666	64	682
新湊東包括	66	467	58	506	59	566
小杉・下包括	82	492	85	356	94	439
小杉南包括	32	412	62	467	62	370
大門包括	92	407	92	457	80	316
大島包括					66	765
計	318	2,288	352	2,452	425	3,138



住民相談の内容により、困難な事例は包括支援センターと市地域福祉課で支援方針を検討

(2) 困難事例等の検討

	R4年度		R5年度		R6年度	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
対応件数	45	55	40	46	70	83



医療や介護につながらない方や中断している方、認知症の行動心理症状(BPSD)が顕著で対応に苦慮している方等は認知症初期集中支援チームでの対応を検討

(3) 認知症初期集中支援チーム対応状況

	R4年度	R5年度	R6年度
対応件数	2	2	2

R6年度対応者の状況

・年齢、性別の内訳

	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳以上	計
男性						0
女性	1		1			2
計	1	0	1	0	0	2

・相談者(延数)

内訳	件数
本人	
家族・親族	
警察	
地域包括支援センター	1
介護保険事業所	1
地域住民	
計	2

・相談内容(延数)

内訳	件数
認知症疾患の臨床診断を受けていない	2
継続的な医療サービスを受けていない	1
適切な介護サービスを受けていない又は中断	1
BPSDが顕著なため対応に苦慮している	2
計	6

・チーム員支援状況(延数)当該年度分のみ

内訳		回数
市・包括	訪問・面談	11
	親族との相談	7
サポート医	チーム員会議	3
	サポート医へ対応相談	3
	サポート医の訪問・往診	0
対応	支援終了	2
	継続中	0

2 情報共有ツールを使用した多職種連携

(1) 認知症共有ツール・多職種連携票の使用

	R4年度	R5年度	R6年度
使用件数	51	72	50

相談機関(地域包括支援センター)より、医療機関へ情報共有ツール(認知症情報共有ツール・多職種連携票等)を使用し、認知症の人が医療機関を受診する際に、生活状況や困り事を相談する。医療機関からは、相談機関へ在宅生活における助言を行う。

(2) 射水市多職種連携支援システム(ICT:情報通信技術)を活用した連携

	R4年度	R5年度	R6年度
認知症の人の新規連携者数	10	10	9

射水市多職種連携支援システム(ICT)を活用し、医療機関及び介護保険サービス事業所等が、認知症の人や家族の生活状況や思い、支援状況の書き込みを行う。緊密な連携により認知症の人や家族の思いに寄り添い、円滑な支援が可能となっている。

3 認知機能検診受診結果及び事後支援状況

(1) 認知機能検診受診結果

(人)

年度	検査内容	検査結果				小計	合計
R4年度	認知機能テストのみ	異常なし		認知症疑い		23	47
		14		9			
	認知機能テスト・MCIスクリーニング検査プラス	健常	MCIリスク低	MCIリスク中	MCIリスク高	24	
		3	6	5	10		
R5年度	認知機能テストのみ	異常なし		認知症疑い		23	40
		20		3			
	認知機能テスト・MCIスクリーニング検査プラス	健常	MCIリスク低	MCIリスク中	MCIリスク高	17	
		3	10	0	4		
R6年度	認知機能テストのみ	異常なし		認知症疑い		57	98
		40		17			
	認知機能テスト・MCIスクリーニング検査プラス	健常	MCIリスク低	MCIリスク中	MCIリスク高	41	
		5	17	15	4		

認知機能テストの結果、MCIの疑いがある方へMCIスクリーニング検査(血液検査)を実施令和4年度から、MCIスクリーニング検査プラスへ変更

令和6年度MCIスクリーニング検査プラス有リスク者のカテゴリー別リスクレベルの内訳 (人)

カテゴリー リスクレベル	栄養群			脂質代謝群			炎症・免疫群 ※1			凝固線溶群 ※2		
	良好	注意	要注意	良好	注意	要注意	良好	注意	要注意	良好	注意	要注意
健常	2	3	0	3	2	0	5	0	0	4	1	0
MCIリスク低	7	10	0	14	3	0	6	11	0	11	6	0
MCIリスク中	3	12	0	9	6	0	2	10	3	9	6	0
MCIリスク高	0	4	0	0	4	0	1	3	0	2	2	0
合計	12	29	0	26	15	0	14	24	3	26	15	0

※1 炎症・免疫群・・・体の炎症状態を反映するタンパク質と体の免疫力の主役となるタンパク質の量を測定

※2 凝固線溶群・・・あたまの中の血管損傷を防いだり、固まった血液を溶かす働きをする凝固線溶に関わるタンパク質の量を測定

(2) 地域包括支援センターによる事後支援

対象 ①認知症疑い ②認知機能テスト・MCIスクリーニング検査受診者

「(1) 認知機能検診受診結果」の内、網掛け部分 が対象

	R4年度	R5年度	R6年度
事後支援件数	33	20	58

内容 訪問・電話・来所により、受診状況の確認、生活上の困り事がないかを聞き取り、生活支援・助言、受診調整、要介護認定等のケアマネジメントを行う。

効果 認知症・MCIが疑われる段階からの専門職による早期介入により、適切な診断、継続的な受診、適切な介護サービスへの結び付けが可能となっている。

また、受診者や家族にとっては相談先が明確となり、円滑に相談をすることができる。

結果			①認知症疑い	②認知機能テスト・MCIスクリーニング検査受診者	計
	生活支援・助言等			7	33
要介護認定等ケアマネジメント			10	8	18
(再掲)	事業対象		1	0	1
	要支援1・2		1	1	2
	要介護1~4		8	7	15

4 認知症初期集中支援チーム員全体会議の開催

日時	方法・場所	出席者	内容
令和6年11月25日(月) 19時15分~20時45分	集合・射水市役所 3階 304会議室	チーム員 医師、認知症地域支援推進員	(1) 射水市認知症初期集中支援チーム・認知機能検診実績について (2) 射水市認知症初期集中支援事業 研修会について (3) 令和6年度認知症関係拡充事業について

「射水市認知症施策推進計画」の策定状況について

1 方針

「いみず地域共生プラン(第2次射水市地域福祉計画・第3次射水市地域福祉活動計画)」(令和3～12年度)見直しに合わせ、射水市認知症施策推進計画(令和8年度～12年度)を一体的に策定するものとする。

2 計画の位置づけ

国の基本計画を基本とし、射水市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画(以下、「市計画」とする。))等の本市の各種計画と調和を保つものとする。

3 計画期間

計画期間は令和8年度から12年度までとする。

4 基本的施策

市計画における基本施策「認知症の人と家族への支援の強化」

- ① 認知症に関する理解促進・本人発信支援
- ② 早期発見・早期対応システムの充実
- ③ 認知症の人とその家族への支援
- ④ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援

5 進捗状況及び今後のスケジュール

時 期		会議等	内 容
令和7年	2月26日	第1回いみず地域共生プランの中間見直しに係る計画策定委員会	・アンケート調査項目の確認
	3月27日～ 4月14日	アンケート調査実施 (市社会福祉協議会合同実施)	市内在住18歳以上の市民2000人を無作為抽出
	7月23日	第2回計画策定委員会	・アンケート調査結果の報告 ・計画骨子(案)の説明
	9月	市議会9月定例会	計画骨子(案)の説明
	10月	第3回計画策定委員会	
	12月	市議会12月定例会	計画(素案)の説明
	12月下旬	パブリックコメント実施	
令和8年	2月	第4回計画策定委員会	・パブリックコメントの報告 ・計画(案)の説明
	3月	市議会3月定例会	計画(案)の説明
		計画策定及び公表	